

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 三好あや  
所属 (School) 看護学研究科  
学年 (Grade) 博士前期課程 1 年  
留学先 (Name of overseas institution)  
Ramatibodi School of Nursing, Faculty of Medicine  
Ramatibodi Hospital, Mahidol University

留学期間 (study abroad period)  
2017 年 9 月 6 日~2017 年 9 月 19 日  
記入日 (Date) 2017 年 9 月 25 日

## 留学レポート Study Abroad Report

今回、タイのマヒドン大学へ 2 週間の Exchange program に参加しました。観光旅行では経験できないような素晴らしい体験をすることができました。プログラムはすべて英語で行われるため、タイへ行くまではとても緊張しましたが、マヒドン大学の学生は英語が流暢だったので、コミュニケーションもスムーズに行うことができました。人生初の英語でのプレゼンも経験しました。今まで、プレゼンの



経験はありましたが、大学院の講義の中で行う程度だったので、初めて自分の話を聞いてもらう相手だったので、より緊張しました。終わった後、日本やタイの高齢者医療について、現状やさまざまな問題点をディスカッションすることができました。ディスカッションを通して、日本とタイでは医療体制や置かれている状況は違うものの、同じような問題が考えられていることが理解できました。

マヒドン大学はタイでも有数の大学です。今回のプログラムの中で、タイの 3 大学が共同で開催する medical conference にも参加することができました。日本では学会が主催するカンファレンスには参加したことがありますが、大学が主催する学会というのはあまり聞いたことがありません。また、カンファレンスでは日本の学会と同様、様々な企業が展示をしていましたが、午前と午後にコーヒーブレイクがあり、そこではフルーツや軽食が振る舞われていて驚きました。



また、elderly club やクリニックなど地域のコミュニティーを支える看護師の役割を見学しました。日本では行政が中心となって地域を支えています。タイでは地域を支える医療専門職が限りなく少ないため、医療職が中心で地域を支えるのではなく地域住民がお互いに助け合うことを看護師が支える仕組みとなっていました。また、タイには十分な施設もないため、介護が必要となった高齢者も在宅で生活をしなければなりません。そのため、地域を支える看護師にはより高度な知識と技術を持ったナースプラクティショナーが必要とされていました。



日本では、在宅を支える看護師として訪問看護師と保健師が中心となっています。しかし、タイでは保健師という専門職はなく、すべてを看護師が担っています。写真にあるような青い白衣を着ている看護師は community health nurse を示しています。日本では在宅で活動する看護師は白衣を着ていないこともありますが、タイでは必ず白衣を着用しているようです。

整形外科病棟や外来を見学しましたが、タイの医療水準は高く、日本の病院と同様の設備が整っている印象でした。ただ、日本と違う部分もありました。例えば、トイレの中でシャワー介助ができる設備があり、外来ではすべての患者が病院に来たら、受付をする前にバイタルサインを測定することになっていました。マヒドン大学の病院は3つあり、それぞれの病院の間には他の病院があったり、病院間にはシャトルがあり、患者やスタッフが利用できるサービスなどもありました。



また、週末はバンコク市内やバンコク近郊の観光をしました。今回のプログラム参加で、タイの医療だけでなく、タイでの看護師の役割などを知ることができました。それ以上に、海外の大学院で学ぶ学生と交流することで、大学院で学ぶ意義などを改めて考える機会となりました。また、ほかの国での看護師の役割を学ぶことで、さまざまなヒントを得ることができました。今後、老人看護専門看護師を目指す中で、今回の学びをもとに新たな視点で、より良い看護が提供できる方法などを考えていきたいと思えます。